

<タイトル>

ウェブで使える「全国デジタル土壌図」を公開

<当該研究成果のポイント>

農研機構は、全国の農地を対象に、土壌の種類や分布がわかる「(旧)農耕地土壌図」を作成し、2010年4月よりウェブ配信を行ってきた。この土壌図にはこれまでに250万件を超えるアクセスがあり、営農指導などの現場で広く利用されている。

今回、より多様な利用場面に対応できるように、農耕地以外の林野も含めた日本の国土全域を網羅する「全国デジタル土壌図(縮尺20万分の1相当)」を作成。併せて改良版の「農耕地土壌図(縮尺5万分の1相当)」を作成し、ウェブ配信サイト「日本土壌インベントリー」にて提供するとともに、2次利用が可能な形でオープンデータ化し、無償配布を行っている。

<期待される効果・今後の展開など>

日本全域を対象に、同一の分類基準で作成された「全国デジタル土壌図」、及び「(新)農耕地土壌図」は、農作物の栽培管理など農業での利用に加え、化学物質の動態把握など環境に関する行政施策に貢献することが期待される。

また、これら土壌図を汎用ファイル形式のオープンデータとして提供することにより、土壌図の2次利用やユーザー独自のシステムでの利用が容易になり、各方面での土壌図の利用が進むことが期待される。

なお、日本土壌インベントリーで表示される土壌図は、現在提供されている「e-土壌図Ⅱ」(iOS版、Android版アプリ)を利用することで、外出先からでも土壌情報に手軽にアクセスが可能となっている。

<研究機関名>

農研機構 農業環境変動研究センター

<担当者名>

農研機構 農業環境変動研究センター

企画チーム長 高田裕介

環境情報基盤研究領域長 神山和則

上級研究員 前島勇治

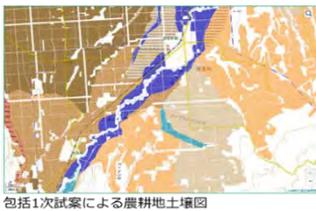
<連絡先>

農研機構 農業環境変動研究センター

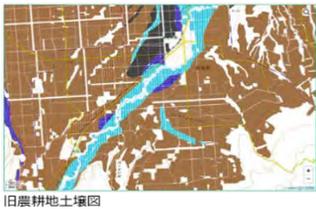
広報プランナー 大浦典子 TEL 029-838-8191

ウェブで使える「全国デジタル土壌図」を公開

日本土壌インベントリー (<http://soil-inventory.dc.affrc.go.jp/index.php>) を通じて、「全国デジタル土壌図(縮尺20万分の1相当)」、改良版の「農耕地土壌図(縮尺5万分の1相当)」を公開。



- 火山灰から生成された土壌
- 下層低地湿性未熟黒ボク土
 - 下層黒ボク腐植質未熟黒ボク土
 - 下層黒ボク普通未熟黒ボク土
 - 腐植質下層低地多層黒ボク土
 - 典型淡色アロフェン質黒ボク土
 - 下層泥炭湿性火山放出物未熟土
 - 下層黒ボク普通火山放出物未熟土



- 火山灰から生成された土壌
- 厚層腐植質黒ボク土
 - 表層腐植質黒ボク土
 - 淡色黒ボク土
 - 淡色黒ボクグライ土

例: 上図の場合、新農耕地土壌図では7種類(旧農耕地土壌図では4種類)に分けられたことから、リン酸を固定する能力や乾燥のし易さなどの土壌の性質の違いを、分類の違いとしてよりきめ細かく読み取ることができる。

iOS、Android搭載モバイル端末上で閲覧可能。
<http://soil-inventory.dc.affrc.go.jp/eSoilMap.php>

【導入により期待される効果】

栽培管理など農業での利用に加え、化学物質の動態把握など環境に関する行政施策への貢献が期待される。